

保育者養成課程におけるピアノ初歩指導の研究

— ブラインドタッチの習得方法を中心に —

専攻 教科・領域教育学

コース 芸術系 (音楽)

学籍番号 M08212C

氏名 津田 安紀子

1. 研究の動機と目的

筆者は短期大学の保育科で、保育士、幼稚園教員養成の為の「音楽教育」、「器楽」の授業を担当している。「保育者養成という分野でどのようなピアノ指導を行うべきか」という問題を常に課題としながら、約10年間ピアノ個人指導担当講師として学生のピアノ演奏能力の開拓、研究に取り組んできた。

一般的なピアノ教育においては長期間に渡り多くのピアノ曲を練習し、学ぶことで様々な音楽表現を理解しながらピアノ演奏の技術を習得していく。しかし、保育者養成課程における音楽教育でのピアノ指導は短期間である。また、入試にピアノ実技試験を課していない養成校ではピアノに全く触れたことのない初心者の学生が多く見られる。幼児教育の現場では初見能力、即興力、表現力等の様々な演奏能力が必要となってくる為に、2年間という短期間に現場で活用できる十分なピアノ演奏法を習得する事は困難で、学生は身体的・精神的苦痛を感じているようである。筆者は養成校のピアノ指導者には、このような学生がピアノで楽しく音楽表現が出来る様に指導する方法、授業内容を工夫していく必要があると感じていた。そこで、ピアノ指導を行うなかで学生の演奏姿勢を注意深く観察することを試みた。その結果、ピ

アノ演奏において苦痛を抱いている学生に共通する原因の一つとして、ピアノの鍵盤を見ないで弾くという「ブラインドタッチ」が出来ていない事が挙げられるという事に気づいた。常に幼児の行動を観察し、把握しておかなければならない幼児教育の現場では、指先で鍵盤を探りピアノを演奏することは必要不可欠なことである。鍵盤感覚を養い「ブラインドタッチ」を習得する事はピアノ演奏や養成校の教育活動において役に立つであろうと考える。しかし、「ブラインドタッチ」についての先行研究や教材は極めて少なく、一般的なピアノ教育においても「ブラインドタッチ」に着目してピアノ指導を行っている指導者は少ないと感じる。

本研究ではピアノ演奏法に関する文献及び保育者養成校で使用されている様々な教則本を参考にしながら、「ブラインドタッチ」についての数少ない先行研究及び教材を比較研究する。そして、保育者養成校の学生がピアノ演奏において困難と感じる部分を詳しく分析し、「ブラインドタッチ」を習得する練習方法を考察していきたいと考える。

2. 研究内容

第1章では、時代の流れに沿っての幼児音楽教育の変化について述べている。そして、現在の保育者養成校ではピアノ教育においてどのような問題

点を抱えているのかを考え、保育の現場で必要とされている演奏技能と養成校で行っている音楽教育の矛盾点を探った。現在使用されている音楽教材を5冊取り上げ、バステインが掲げた2～3年で行う学習到達目標の10項目を参考にして内容を考察した。

第2章では、ピアノ演奏における身体と脳の働きを述べると共に「ブラインドタッチ」を習得する為にどのような指導方法が適しているのかを探求した。「ブラインドタッチ」を習得するには鍵盤図の把握が必要であることを仮説とした上で、学生に鍵盤図を書かせることでピアノ経験の有無に関係なく、正しく鍵盤図が書けない学生は「ブラインドタッチ」が出来ていないと結論づける結果となった。また、「ブラインドタッチ」を習得出来ると初見能力の強化に繋がることもわかった。筆者自身が幼児に行っている指導方法を基に短期間で行える独自の「ブラインドタッチ」習得の指導方法を述べた。

第3章では、保育者養成校で最も多く使用されている教則本の中から数曲を取り上げ、「ブラインドタッチ」の習得を目的とした観点から学生が躓いている演奏上の問題点を分析した。問題点に対して筆者が実際に行った練習方法を参考にし、「ブラインドタッチ」の習得のための教材を作成した。

3. まとめと今後の課題

本論文では、「保育者養成校におけるピアノ初心者の学生に短期間でどのような指導を行うべきであるか」という視点から「ブラインドタッチ」に着目してきた。鍵盤楽器であるピアノはメロディーを奏で、リズム楽器としての機能を持ち、様々な音の組み合わせにより和声を作ることが出来る。このようにピアノは楽器として表現の幅が広く、幼児教育において表現活動の手段として重要視されていると考えられる。そして、保育実習や採用

試験では楽譜通りに弾くだけでなく、即興演奏や変奏の能力などの現場で役立つピアノ実技能力が求められる。

保育者養成校でのピアノの授業における問題点の一つに、入学時における学生の演奏能力のレベル格差が挙げられる。そして、ピアノ経験の有無に関係なく現場に役立つ演奏技能を学生が習得出来るように指導することが指導者に課せられるのである。しかし、保育者養成校の多くはピアノの個人レッスンの授業を減少する傾向が見られる。このような少ない授業の中でピアノ初心者にとって短期間で演奏技能の習得をすることは困難であるが、筆者は「ブラインドタッチ」を習得することは大変有効的であると考えた。ピアノを専門的に学んできた筆者にとっては「ブラインドタッチ」は無意識に行っている動作であり、「ブラインドタッチ」を習得する指導方法を導き出す為に、改めてピアノを弾くにはどのような感覚が必要であるかを再認識することが出来た。「楽譜を見る」のではなく「楽譜を読む」ことの大切さや、ピアノを弾くことは単に指先を動かすのではなく、全て「脳」の働きにより五感や筋肉が機能することによって成り立っていることがわかった。

そして最後には、使用しているテキストの中から最も多く学生が弾いている曲を取り上げ、演奏上の問題点を分析することで「ブラインドタッチ」が出来ていないために躓いている原因を5項目に絞り教材を作成することが出来た。今後は本研究を活かし、作成した教材を参考にし、さらに実践を重ねることで考察を深め、「ブラインドタッチ」の習得方法をより適切な内容へと発展させていきたい。

主任指導教員 木下千代